

市政ニュース

多文化共生社会をめざして 外国人集住都市会議東京2008を開催

平成19年度と20年度の2年間、当市が座長を務める外国人集住都市会議（以下、会議）は、先月15日に東京都内で、「外国人集住都市会議東京2008」以下、東京会議を開催しました。

会議は、ニューカマーといわれる日系ブラジル人を中心とした外国人が多く住む都市のネットワークで、平成13年に浜松市で13都市が集まりました。

今回は26都市の参加があり、多文化共生への関心が全国的に広がりをみせていることを表しています。

この2年間は、「多文化共生社会をめざして」すべての人が参加する地域づくりをテーマに、調査・研究を行ってきました。

東京会議では、「第Ⅰ部 ブロック提言」と「第Ⅱ部 外国人集住都市会議首長と5省庁との討論」の2部構成で開催しました。

第Ⅰ部は、各地域ブロックの報告として、群馬・静岡ブロックから、「生活者としての外国

人と地域コミュニティとの関わり」について、長野・愛知ブロックから、「地域における企業の外国人への支援及び自治体との連携」について、最後に、岐阜・三重・滋賀ブロックから、「外国人の子どもの教育」についての提言を行いました。

第Ⅱ部は、参加都市の市・町長と総務省、法務省、外務省、文部科学省、厚生労働省の担当者などによる討論を行いました。

国に対して、教育や地域コミュニティなど多文化共生に関する地域の実情を訴えるとともに、現行法制度の改正や新たな法制度の創設について求めました。

問 多文化共生室 内線363



そして、最後に、渡辺直由市長が、会議を代表して「みのかも宣言」を発表しました。同宣言では、外国人政策を総合的に企画・立案し、関係省庁に対し強い主導力を発揮する組織の設置と、外国人住民に日本語習得の機会を保障することを国に対して求めました。

だれもが暮らしやすいまちづくりをめざす「多文化共生社会」の実現には、まだまだ課題も多く、こうした地方からの情報を発信することが求められています。

なお、この東京会議に当市からも、市民や美濃加茂国際交流協会などの多くの関係者にご参加いただくとともに、熱心に傍聴いただき誠にありがとうございました。

12月4日から10日までは**人権週間**です

育てよう 一人一人の人権意識

－思いやりの心・かけがえのない命を大切に－

わたしたちは、お互いが相手の人権を尊重し、学校や職場、家庭や地域社会で明るい豊かな人間関係をつくる必要があります。この機会に人権とはどういうものなのか、皆さん一人一人あらためて考えてみましょう。

お気軽にご相談ください

■人権擁護委員による無料相談所開設

◇とき 12月10日(水) 午後1時～4時

◇ところ 中央公民館

※秘密は固く守られます

問 市民課 内線225



野外での焼却は、禁止されています！

家庭などから出た日常生活のごみを燃やしていませんか。ごみの野外焼却は、煙・焼却灰・悪臭などにより周囲の人に迷惑を掛けます。

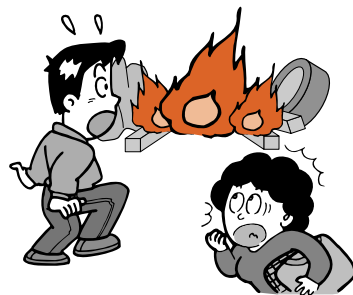
また、ダイオキシンなど有害物質の発生源になるため、わたしたちの健康や自然環境へ大きな影響を与えることになります。

◇「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第16条の2により、野外焼却は禁止されています。

例外として、災害時の対応、宗教行為、農業行為、庭木剪定(せんてい)枝などの軽微な焼却は認められていますが、ビニール・プラスチック類は、焼却ができません。また、周辺環境に悪影響を及ぼしたときは、すぐに焼却を中止してください。

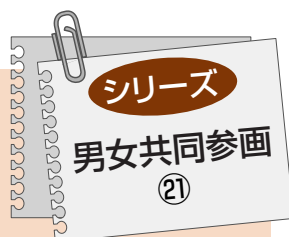
法律で例外として認められている行為であっても、必要最小限にとどめ、次のようなことに注意し、他人に迷惑を掛けないようにしてください。

- 風向きや時間帯などを考え、近所の人に迷惑を掛けないようにする。
- 隣近所に声を掛け、お互いに理解ができるようにする。
- 焼却物はよく乾燥させ煙の発生を抑えて、焼却灰を飛散させないようにする。



環境シリーズは、今回で休止します。

問 環境課 内線304



～男女共同参画推進懇話会委員のつぶやき①～

何年か前に、市の講座で興味深い講座を受講したことがありました。受講中に、「男女共同参画」をテーマにした講座だと分かりましたが、それまで持っていたわたしの男女共同参画に対するイメージはというと、1970年代に活発に行われた「ウーマンリフ運動」でした。

当時子どもだったわたしは、その基本理念など分かるはずもなく、運動に参加する人たちは、街頭で大声を張り上げている怖い人たちにしか見えませんでした。母を通して女性を見て育ったわたしは、女性像が自然に刷り込まれていたようです。

男女共同参画について勉強するうちに、男女のみでなく、大人、子ども、高齢者、障がい者、外国人などの壁を取り除いたすべての人の対等な立場を尊重することが社会をつくる上で大切なことだと学びました。

先日、わたしが講師を務める「プリザーブドフラワー講座」を隣町の中学校で開催したところ、参加者の44%が成人男性であり、とてもびっくりするともにうれしく思いました。

高齢化していく社会で、生きがいとして生涯学習を探している人も多いことでしょう。男性向き講座とか女性向き講座とかのイメージで選ばず、自分がやりたいことを見つけ、心豊かな生きがいを見つけていただけたらと思います。

(男女共同参画推進懇話会)

